

在宅における訪問看護師のヒヤリ・ハット体験の実態調査及び分析

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-10-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中野, 順子, 小原, 敦子, 有田, 弥棋子, 高松, 邦彦, 中田, 康夫 メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-tokiwa.repo.nii.ac.jp/records/997

1-R-4

在宅における訪問看護師のヒヤリ・ハット体験の実態調査及び分析

中野順子¹⁾

小原敦子²⁾ 有田弥棋子³⁾ 高松邦彦⁴⁾ 中田康夫⁵⁾

目的: 訪問看護師が在宅で体験するヒヤリ・ハット項目を、施設における全国調査と中小施設での調査結果と比較し、自由記述の分析によりその特徴を明らかにする。**対象と方法:** 賛同を得た訪問看護ステーション 30 箇所とそこに勤務する訪問看護師 180 名に郵送での自記式質問紙調査を行った。**結果と考察:** 回収率 67.8%、ヒヤリ・ハットの体験頻度は時々体験するが 7 割弱で、施設での調査とほぼ同数であった。選択回答式による領域別分類の単純集計では全 488 回答の内、療養上の世話の転倒・転落が 67 件、与薬が 63 件、患者家族への説明、接遇が 44 件と多く、全国調査と中小施設調査との比較でも、医師との連絡などの観察情報とその他の備品や感染に関する項目の割合が高かった。また、体験の頻度と回答者の属性をノンパラメトリック法の順位相関係数で求めたが、いずれも相関は認められなかった。自由記述では、印象深いヒヤリ・ハット体験をテキストマイニングによる頻出語で、訪問、忘れ、利用、時間、内服セット、薬、確認、連絡、が多くみられた。KJ 法でも内服管理と訪問や物品忘れ、単身で感ずる危険や、爪切り・感染など身体への侵襲の頻度も明らかになった。アクシデント事例の背景要因で発見の遅れが死につながった例もあり、在宅におけるヒヤリ・ハット体験は施設とは大きく異なり、自治体との連携の強化や、独自の調査紙の作成を図り情報を広く集約し、在宅における安全に寄与したい。

1) 神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程 2) 孔仁舎 訪問看護ステーション碧い音

3) 梅花女子大学看護保健学部看護学科 4) 教育学部こども教育学科 5) 保健科学部看護学科